

かごしまNIE通信

教育に新聞を



Newspaper in Education

発行 鹿児島県NIE推進協議会 (南日本新聞社内) 〒890-8603 鹿児島市与次郎 1-9-33
電話 099 (813) 5168 FAX 099 (813) 5017 メール nie-kago@373news.com

県推進協研修会

表現力育む「はがき新聞」

実技に教諭50人挑戦

鹿児島県NIE推進協議会は8月19日、夏季研修会を鹿児島市の南日本新聞会館で開催。はがきサイズの紙で新聞をつくる「はがき新聞」のワークショップと、名古屋市であった第22回NIE全国大会に参加した実践校教諭らの報告会を行いました。

授業や体験学習などで学んだ成果をはがきサイズにまとめる「はがき新聞」は、限られたスペースに伝えたい情報を整理することで、読解力や表現力の向上が期待できるため、全国で広がりを見せています。

ワークショップは、さつまいも出身で、はがき新聞づくりの第一人者、東京都千代田区立九段中等教育学校の上村礼子副校長が講師を務めました。上村副校長は、児童の作品例を示しながら、「新学習指導要領でうたわれ

ている主体的・対話的で深い学びにつながる」と



はがき新聞の作り方を話す九段中等教育学校の上村礼子副校長

堂々発表する児童らに驚き

実践校教諭ら全国大会報告

NIE全国大会名古屋大会(8月3、4日)に参加した大川内小、荒田小、川辺中、鹿児島南高の教諭が報告を行いました。



大川内小の田尾久美子教諭は「自動運転」をテーマに討論する小学6年

生

指摘しました。その後、参加した約50人の教員らははがき新聞づくりに挑戦しました。はがき新聞が出来上がると、互いに笑顔で評価し合っていました。

はがき新聞作り方

- ① 伝えたい内容を3つほど選び、トップ記事、2番手の記事、囲み記事などに分ける。
- ② はがきサイズの用紙を使い、最初に外枠を描

き、次に記事や写真、絵をどこにいれるか、わりつけをする(最初は用紙を上中下の3つに分け、記事3つで考えると作りやすい)。

次に見出しを書く(先に絵を描くと進めやすい)。

③新聞のタイトル、学年、学年、名前を書き、

☆上村副校長からアドバイス

教諭らがつくったはがき新聞



生の公開授業を見学。「子供が自分の主張に説得力を持たせるため、新聞を引用しながら意見を述べる姿が印象に残った」と語りました。

元現代の社会情勢を検討し、さらに10年後の働き方を考える高校の公開授業に参加。「生き生きと話す生徒に驚いた。中学生の発達段階に合った形で実践してみたい」

荒田小の福蘭徹教諭は情報活用力の育成を目指した4年生の公開授業などに参加しました。福蘭教諭は「NIEを進める上で『新聞を教える』のではなく、『新聞で教える』視点を忘れてはならないと感じた」と振り返りました。

NIEアドバイザーの鹿児島南高の池之上博秋教諭は特別分科会「主権者教育とNIE」に参加しました。防災新聞を作成するなど地域の課題を考える小学校の取り組みに「普段から社会的課題に取り組むことが将来の投票行動につながる」と感じました。

川辺中の東まどか教諭は、10年前の新聞記事を

に「普段から社会的課題に取り組むことが将来の投票行動につながる」と感じました。

実践校便り

児童らが校内新聞

柏原 小

4月に4年生以上の児童が新聞情報委員会を立ち上げました。活動の柱は月1回の新聞作りです。写真、新1年生の声を集めたり、運動会で好きな種目をアンケートするなど、学校の様子がわかる楽しい内容になっています。

若松俊彦教諭は「子どもたちが新聞に親しめるよう取り組みを進めてきたい」と話しています。



入試面接にも有効

樟南 高

樟南高校の光司智徳教諭は「新聞活用授業で豊かな人間性を育てる」と



題して、10月14日鹿児島市で開かれた県NIE研究会で講演しました。写真。

光司教諭は毎週1時間、新聞を使ったオリジナルの授業に取り組んで4年目。元日経新聞記者という経歴を持つ光司教諭の新聞活用授業は、全国でも例を見ないユニークな取り組みです。授業では「新聞に触れることで世の中の仕組みを知り、考察することで人間性の幅を広げる。さらに文章力の向上や問題意識の構築など進路実現

南海日日新聞社は1946年(昭和21年)に創刊し、今年11月で71周年を迎えます。

第2次世界大戦後、奄美群島は、沖縄県とともに日本から分離され、米軍政府の統治下におかれました。自由な言論活動は制限された厳しい状況の中で、奄美の文化を向上させていこうと、創刊されました。群島民あげて参加した「日本復帰」運動に大きくかわり、以来、「奄美のあす

かごしまメディアの現場から

南海日日新聞社 営業局販売部課長 武島 靖



奄美群島のニュースを中心に伝える紙面

奄美の人と島を結ぶ

をひらく」をモットーに、奄りに取り組んでいます。奄美市名瀬に本社をおき、東京、鹿児島市、徳之島、沖永良部の4支社・総局があります。発行部数は約2万4000部。配達先は奄美大島、徳之島、沖永良部、与論、喜界にある計23販売店が行います。奄美大島は朝刊配達です。が、定期船の南下とともに、徳之島が午前中、沖永良部が昼、与論が夕方と、配達時間が異なります。奄美群島内のが異なるかもしれません。出来事はもちろん、政治、経済、プロスポーツなど出身者が

の全国的な活躍も伝えるような心がけています。一番大変なのは、奄美群島は台風の常襲地帯で、悪天候で離島間の交通網が遮断されるとき、当日の新聞が届けられないと困る。さびしい」など読者のみなさんの声には申し訳なく、一方で楽しみに待つ方々がいるという喜びを感じています。

少子高齢化による世帯数の減少や若者の活字、新聞離れなど、課題は多いですが、魅力を感じていきたいです。

新アドバイザーに中野教諭 学校での学びを 社会とつなげる



中野嘉彦教諭

日本新聞協会の「NIEアドバイザー」に、9

月、始良市加治木小学校の中野嘉彦教諭(37)が認定されました。

NIEアドバイザーはNIE実践の経験を生かし、NIEに取り組み学校や教師へ助言や支援活動を行います。「新聞を通

し、学校で学んだことを社会をつなげ、子どもたちの世界を広げていきたい。鹿児島県の先生方と力を合わせて歩んでいきたい」と、中野教諭は抱負を語ります。中野教諭は、出水市蔵島小でNIE実践を担当、児童の読解力向上に力を注ぎました。同小は大学の研究者を招いて公開授業を積極的に開催。NIEを軸に地域に開かれた学校作りを行い、注

目されました。鹿児島県のNIEアドバイザーは7人になりました。◇ NIEアドバイザーが学校などで助言や指導など活動をするための出張旅費は県推進協が負担します。アドバイザーの助言・支援を希望する学校がありましたら、お気軽に事務局099(813)5168までお問い合わせください。